

## 「いいかげんにしろ！」

一緒に、絵本の楽しい世界を

NPOゆめ 竹上 道邦

(元特別支援学級 担任)



「いいかげんにしろ！」

特別支援学級の生活単元学習。生活科のべんきょうも兼ねて、畑で野菜作りをしています。

植物の成長にも興味を持って楽しめるものにと、子どもたちとスイカを育てることにしました。

食べたスイカからタネを取り出し、学習園に植え、毎朝、朝の会の後、みんなで水やりです。

1年生のAくんは、畑に行くときスコップで土を掘り返し、「いいかげんにしろ！」と怒鳴ります。

「ほったらダメ！」「ちゃんと水やりをしないと大きくなるよ」と先生に注意されます。

でも、また、次の日も、土を掘り返して「いいかげんにしろ！」

みんなに怒られながらも、また、次の日も・・・

『なんで、あんなことをするのだろう』と悩む毎日。数日後のお母さんからの連絡帳で、私の悩みはすっかり、心があつたかくなりました。

Aくんが、今はまっている絵本は、「ばばばあちゃんの すいかのたね」だったのです。

ばばばあちゃんの植えたスイカの種を、いろんな動物が、「何だろう？」と掘り返します。スイカの種はなかなか芽を出すひまがありません。ばばばあちゃんは、「いいかげんに芽を出して、大きくおなり」と叫びます。すると、スイカの種も怒って・・・「いいかげんにしろ！」

こだわりが強く、自分の思いと違うとパニックになることも多く、ことばでのやりとりが難しい子と思っていた自閉症のAくんの中に、絵本の世界がいっぱい広がっていたのです。「いいかげんにしろ！」は、『早く芽をだしてほしいな』という、Aくんのねがいなのかもしれません。

おにぎりを一緒に作った「おむすびころりん」。いろんな家を作って遊んだ「三匹のこぶた」。いろんな絵本の世界を一緒に楽しむ中で、Aくんとのことばの世界は、どんどん広がっていきました。

できないから、訓練して身に付けさせる。スモールステップで行動を修正する。そんな教育の流れは疑問です。

それぞれの子どもたちにも楽しむ世界があります。

ねがい、要求があります。

楽しんでいいんだよ。一緒に楽しもう。



おじいさんは、おにぎりをもってしごとに出かけます